

苫小牧市総合教育会議議事録

会 議 名	第12回 苫小牧市総合教育会議
日 時	令和3年1月22日 自 14時00分 至 15時05分
場 所	市役所本庁舎5階第2応接室
出 席 者	市 長 岩 倉 博 文 教 育 長 五十嵐 充 教 育 委 員 佐 藤 郁 子 教 育 委 員 齋 藤 智 子 教 育 委 員 岡 田 秀 樹 教 育 委 員 高 橋 憲 司
欠 席 者	
事 務 局	教 育 部 長 瀬 能 仁 教 育 部 次 長 山 地 吉 明 教 育 部 次 長 斎 藤 貴 志 教 育 部 参 事 池 田 健 人 教 育 部 参 事 桑 島 久 典 総 務 企 画 課 長 補 佐 千 葉 暢 総 務 企 画 課 主 査 矢 部 妙 子 総 務 企 画 課 主 事 田 中 真 奈
協 議 事 項	(1) 学習用ICT環境の整備について (2) 校区見直しについて (3) 北海道苫小牧支援学校について
会 議 の 経 過 概 要	別紙のとおり

1 開会の宣言 . . . 14時00分
(岩倉市長) それでは定刻になりましたので、第12回苫小牧市総合教育会議を開催いたします。
まず、先般の8日と10日の成人式であります。ご出席をいただきましてありがとうございました。事務局も開催に向けて実行委員会と共に、大変、決断の苦労があったのではないかと思います。無事に出席することができ、明後日で2週間ですから、感染報告もなく、無事に終えることができたのではないかと思います。市の方では、年末年始のクラスターについては、先週でほぼ終息しておりますが、連日のように、数は少ないものの感染報告がある状況が続いています。引き続き、感染拡大防止、地域経済対策、そして市民の健やかな日々という3点を重点軸に、しっかりと対策をしていきたいと考えております。コロナ禍、あるいは新型コロナウイルスを見据えた教育行政の役割も非常に重要なところでありますので、教育委員の皆様には、この1年もどうぞよろしくお願いを申し上げたいと思います。
2 協議事項
(1) 学習用ICT環境の整備について
(岩倉市長) それでは、議題の1「学習用ICT環境の整備について」事務局から説明をお願いします。
(総務企画課長補佐) 総務企画課ICT担当の千葉と申します。議題1「学習用ICT環境の整備について」説明をいたします。このタイトル画面の写真ですが、元日の苫小牧民報の特集記事からの写真を引用しております。この記事でも紹介していただきましたが、市内小中学校の学習用タブレットや校内ネットワークの導入が進み、本市でもこれから新しい学びが始まってまいります。

<p>続きまして、この事業の目的です。本市のICT化については、文部科学省のGIGAスクール構想が元となっております。このGIGAスクール構想は、児童生徒一人一台の学習端末を活用することで、一人一人にあった、個別最適化した学びを実現するという構想で、国としても当初、令和5年度までの整備予定でありましたが、コロナ禍における臨時休業時の学びの保障に役立てるということから、令和2年度までに前倒しとなった経緯があります。本市でも、今年度中の配備を目途に事業を進めております。</p>
<p>続きまして、事業の概要ですが、まずは端末のお話からさせていただきます。学習用タブレットPCを一人一台分の台数を学校に配備します。実は本市では、文部科学省からGIGAスクール構想が打ち出される前の昨年度の実業で、コンピューター教室のデスクトップパソコンをタブレットPCに既に更新をしており、1,400台余りのタブレットが既にあります。今回は、これに加えて、1万2千台余りを今年度中に、国の財源で追加整備を行うこととなっております。また、タブレットを整備するとともに、インターネットに接続するための校内ネットワーク、特にタブレットは無線での接続が必要となるため、無線LANいわゆるWi-Fiの環境を整えるための工事も国の補助金を活用して行っております。また、タブレットを放課後に格納して充電をするための充電保管庫も、各校に設置しております。それから、学びの保障としての家庭学習への対応として、モバイルルータも整備しております。これは、非常時限定での利用を想定していますが、家庭にインターネットを接続する環境のない児童生徒に貸し出しをして、タブレットをインターネットに接続するための中継器のようなものです。また、オンライン教材サービスは、インターネットに接続した先のシステム上で、学習ドリルを実施するものであり、非常時に先生が学習課題を児童生徒に出題して、解答させるといった使い方ができますが、それだけにとどまらず、普段の授業の中で大いに利用できるものと考えております</p>
<p>続きまして、事業全体のイメージです。現在は、コロナ禍の学びの保障に焦点が集まっていますが、このイメージ図にあるとおり、青枠で示している平時の新しい学び</p>

にどのように活用し、新学習指導要領に沿った情報活用能力の養成や「主体的・対話的で深い学び」に役立てていくのかというところが肝要であると考えております。ただし、感染症の流行や地震などの災害により、対面での授業が難しい状況になれば、赤枠に示したように、オンライン学習による学びの保障に役立てることができるため、その運用方法について、現在検討を重ねているところです。

続きまして、スケジュールについてです。校内ネットワーク整備と端末配備を並行して行っておりまして、中学校を優先に順次進めており、今年度中には全校でタブレットの配備と接続するネットワークの工事が完了する予定となっています。ちなみに、1月15日現在、端末配備とネットワーク整備、すべてが完了している学校数は、12校となっております。

さて、環境の整備もさることながら、教職員の皆様が授業の中で十分に活用できるようにサポートをすることも重要であると考えており、今年度は、3回の研修をオンラインで実施しております。今週実施しました、オンライン教材の活用に関する研修をもって3回の研修が完了しておりますが、この研修には500名以上の教職員がオンラインで参加しています。また、障害対応や技術的な問題へのサポートとして、国の補助で委託しているICTスキルのある外部業者がおりますので、導入時はGIGAスクールサポーターとして、日々の運用へのサポートはヘルプデスクとして、教職員のICT活用の手伝いをさせていただいております。

最後に、タブレットPCでできることを少し紹介したいと思います。タブレットには、カメラが内蔵されておりますので、スマートフォン同様にQRコードを読み込んで動きのある教材を表示することができます。それでは、こちらは新しい家庭科の教科書ですが、二次元バーコードがありますので、実際に読み込んでみます。野菜の切り方の動画をご覧いただきたいと思います。このように、紙の教科書では今まで表現ができなかった動きのある教材を、児童生徒の手元で確認ができるという特長があります。もう一つ、技術の教科書も読み込んでみたいと思います。今度は、動画ではなく、シミュレーションといったものですが、ヘアドライヤーの分解シミュレーション

<p>という教材があります。このようにボタンを押していくと、いろいろな角度から</p>
<p>ドライヤーを見ることができますが、カバーを外した状態でも同じように、いろいろ</p>
<p>な角度から見ることができます。あるいは、実際にヘアドライヤーのスイッチを入れ</p>
<p>たら、どのような動きになるのかというシミュレーションを見ることができます。そ</p>
<p>れでは最後に、体育の実技などで役に立つソフトをご紹介します。追いかけて再生とい</p>
<p>うソフトをご覧くださいと思います。録画した後に、自分の動きを確認することが</p>
<p>できるソフトです。今、5秒前の自分の姿が映るように設定しています。今現在の自</p>
<p>分の姿は、この小さい部分に映っています。例えば、卓球を例に実演します。自分の</p>
<p>サーブの打ち方が良かったかどうかを、このように確認することができるソフトがあ</p>
<p>ります。これは、体育の授業で役に立つのかなと思います。このような簡単な使い方</p>
<p>から、まずは先生方にご案内しようと思っています。今作成中の、ガイドラインの中</p>
<p>で、簡単スタートマニュアルといったものを用意しております、まずは簡単などこ</p>
<p>ろから取りかかっていたらどうかかなと思っています。私からは、以上です。</p>
<p>(岩倉市長) それでは、この件に関しまして、冒頭に概要等の説明がありましたが、</p>
<p>委員の皆様及び教育長から、ご質問あるいはご意見がありましたらお願いしたいと思</p>
<p>います。これは、配備までに一定の時間がかかりますが、全体としてスタートするの</p>
<p>は、令和3年度からですか。</p>
<p>(総務企画課長補佐) 今現在、すでに配備されている学校もありますが、実際に本</p>
<p>格的にスタートするのは、令和3年度の4月に入ってからを考えています。</p>
<p>(岩倉市長) 令和3年の4月からですね。ただやはり、慣れるまでには先生方を含</p>
<p>めて1年くらいはかかるでしょうね。何か、ご意見ご質問はありませんか。</p>
<p>(五十嵐教育長) 3回、教員向けの研修を行ったということで、私も報告を受けて</p>
<p>いますが、研修の中で受講した先生方がICT、一人一台化を活用し、実際の授業の</p>
<p>中でどのように活かせるかというイメージは、3回の研修だけでは、なかなかわか</p>
<p>ないと思うのですが、研修を受講した先生方の感触、受け止め方を何か指導室で聞い</p>
<p>ていることがあれば教えてもらいたいと思います。</p>

<p>(教育部池田参事) まずは、このような素晴らしいタブレットが入ってくるという</p>
<p>ことで、現場はどのようなことに使えるのか、手探りの中で3回の研修を受けた、と</p>
<p>いうのが、正直なところだと思います。その中で、使えるような選択肢が何個か紹介</p>
<p>され、そのイメージが広がり、これから導入され、使用しながらその視野を広げてい</p>
<p>くというところだと思います。市教委としては、さらにより良い使い方ということで、</p>
<p>先生方に向けたICT活用ハンドブックの作成や来年度に入ってから、実際の授業の</p>
<p>中で、さらにこのような使い方があるといった調査、研究を市教委と現場が共に行っ</p>
<p>ていくということで、今、歩き始めたところです。</p>
<p>(五十嵐教育長) わかりました。</p>
<p>(岩倉市長) 他に何かございますか。</p>
<p>(高橋委員) 学校での取組については、事業全体のイメージの中で理解をしたので</p>
<p>すが、非常時でも使用できるということでW i - F i の環境を含めたインターネット</p>
<p>環境自体がご自宅にあるかどうかで、利用できるかどうか、一つの課題になって</p>
<p>くるのかと思いますが、そのあたりは現在のところどのように考えているのでしょ</p>
<p>うか。</p>
<p>(総務企画課長補佐) 昨年の臨時休校の際に、アンケートを取っておりまして、今</p>
<p>苦小牧市内で、インターネット環境がない方というのが、約12%いるということが</p>
<p>わかっております。なるべく、家庭のパソコンやインターネットを使用していただく</p>
<p>ことが、前提となるのですが、環境のない方に対しては、国の補助金を使用して、</p>
<p>モバイルW i - F i ルータを12%の方に与えられる数は、今回購入しております。</p>
<p>また、一部の方に通信費を負担できるように予算付けをしております。</p>
<p>(高橋委員) おそらく、インターネット環境が一律化はされていないと思うのです</p>
<p>が、データ量が動画再生等だとかなり多くなるものですから、現在、Z o o mアプリ</p>
<p>だとかを使用しても、使えるけれども止まってしまうなど、通信速度の関係で弊害が</p>
<p>出てしまうことがかなり考えられると思いますので、是非、そちらの方もお考えにな</p>
<p>って進めていただければと思います。以上です。</p>

(岩倉市長) その他ございませんか。
(佐藤委員) 今、いろいろとご説明をいただき実際に見ることができて、教室に居るように授業ができるので、特に非常時は良いと思いましたが、私どもの大学ではコロナ禍の影響を受けまして、リモート授業を実際に行い、向き不向きのある科目があるということがわかってきました。実際に確認をしながら進んでいかなければならない科目になってきますと、資料作りや準備に、随分時間をかけなければいけません。先生方はこれから慣れて活用されていくと思いますが、実際に使用すると、非常に予期しないことが出てまいりました。教室で授業ができるということは、こんなに効果が高いものなのかということを感じまして、実際にリモート授業を終えて学生に聞きますと、見る物や実際に体を動かすものに関しては良いけれども、文字化されたものを理解するようになってくると難しいというようなことがありましたので、非常時は別として、普段の授業の中で使用されるときは、科目に対して、どのくらい効果があるのか、ということをよく調べてお使いいただければと思います。以上です。
(岩倉市長) 他にいかがでしょうか。
(齋藤委員) G I G Aスクール構想のお話については、私が教育委員会に入ってからお聞きし、とても画期的で早く進んで欲しいなと思っておりましたが、コロナ禍のおかげとっては怒られますが、早く進むことになり、通常の学校生活の学びの中で活用されるというのが大前提ですが、このコロナ禍になったことで、非常時でも子どもたちの学びを止めないという、学びを保障するツールということで非常に喜ばしいことだなと思っています。ただ、まだ始まったばかりですので、何とも言えないところもありますが、物事にはメリットとデメリットがあると思います。メリットは、このように見せていただいて、佐藤委員がおっしゃったように、教科によって、差はあるとは思いますが、より子どもたちの深い学びに繋がるなということがよくわかりましたが、デメリットの部分はこれから出てくるのかなと思いました。例えば、今の子どもたちは、実際にものに触れたり体験をしたりする前に、何でも情報が先に入ってきてしまい、体験をしたいけれども体験をした気になってしまうようなところがある

のかなと思います。バランスを大事にしながら、とりあえず1年間動いてみて、先生方がそのあたりを一番わかっていると思いますので、それぞれの良い面、悪い面を考えながら、また、デメリットが出たらどのように解決をしていけばよいのか、検討しながら進めていただきたいと思います。それともう一つ、資料を見ていて質問ですが、いままで学校に1,423台のタブレットがあったのが、今回、12,026台追加するというので、それだけの財産が増えるということになると、それだけの管理をしなければならないと思います。私も使用していてそうなのですが、学校で授業を受けているときに、うまく動かなかったり、いろいろな情報がたまり速度が遅くなってしまうなどそういう事が結構起こると思うのですが、その際に、学校の先生が見て解決をしていくのか、専門のスタッフの方が直していくのか、そのあたりをどのように考えているのかお聞きしたいです。

(総務企画課長補佐) 全てのタブレットを使用した授業に、技術者が寄り添うことは、なかなか難しいのですが、いままでの校務用パソコンの管理や、既に入っているタブレットの管理は、我々の方で外部委託しているヘルプデスクのメンバーが、学校と密に連携を取り、問題解決をしてきたという経緯もありますので、その体制を今回のGIGAスクール構想の中で、もう少し強化をして対応をしていきたいと考えております。

(齋藤委員) もう一点、今回参加させていただくまで、私の認識が違っていたかなと思ったことですが、非常時に貸出学習タブレットを子どもたちに貸して、家に居ながらも学校の授業を受けられるということをベースに行うと思ったのですが、それは、ご家庭にタブレットやパソコンのないご家庭にだけ、貸し出すということになるのでしょうか。

(総務企画課長補佐) 昨年の臨時休校の際に、文部科学省から、なるべく家庭にあるものも使っただきながら、足りないところを補うという方針が示された経緯があります。今回、問題は家庭の中にタブレットはありますが、通信をどうするのかという問題が出てくると思うのですが、やはり、全員にモバイルルータを貸し出すこと

ができないので、なるべく家庭で使える方はそちらを使っただき、足りないところを、今回配備したモバイルルータで補っていくという形で考えております。

(齋藤委員) 今、なぜお伺いしたのかというと、やはりタブレットには良い面と悪い面があり、どうしても子どもたちは遊びや動画などに集中してしまいがちかなと思ひまして、特に非常時で学校に行けない時というのは、動画を見たりゲームをしたりする時間がとても長くなってしまふと思ひます。もし、学校のタブレットを貸し出すことができるのであれば、例えば、時間を決めて何時以降使用できなくするといった設定をすることができると思ひるので、そのように活用ができるのではないかと思ひました。そうは言っても家にあるパソコンでやるじゃないかと思われるかもしれませんが、そのような理由でお伺いさせていただきました。以上です。ありがとうございます。

(岩倉市長) 他にいかがでしょうか。

(岡田委員) 私もアナログ人間なので、このようなICTの活用などに戸惑ってしまつたのですが、これからの社会、生活をしていく上ではやはり、こういった子どものころから、こういうものに慣れ親しんでそれを使っていくことが子どもの将来の社会的な活動に繋がっていくと思ひるので、非常に大事なことだと思ひます。授業で理解していただく資料の作成と共に、子どもたちが機械をどういふときに使う必要があつて、どういふときは最終的に情報に基づいて判断するのは、自分であるという、機械と人間のバランスというのも大事なのかなと思ひますので、そういったところも授業で必要になってくるのかなと思ひます。

(岩倉市長) 他にはよろしいでしょうか。

(高橋委員) 実際に運用してから、いろいろな課題が出てくると思ひますが、例えば、約12,000台という数字だけを考慮しても、先ほどおっしゃつていた約12%の方々が、インターネット環境のない家庭という事であれば、様々な形で教員だけがいろいろなフォローをするのは難しくなると考えます。このような事業が立ち上がった段階に置いて、できるかできないかは別として、PTAが各学校にあります

ので、例えば詳しい方に保護者を含めてお力を借りるというのも一つの考えかなと思いますので、同時作業で、そのあたりの周知徹底や、お願いができることがあればお願いをしていくことも必要かと思えます。もう一つ懸念するのが、小学校の1年生だとかは使い方自体がなかなかわからない中で、おそらく進められていくことも出てくると思います。また、お父様、お母様方もなかなか理解できない不得意分野の方もいらっしゃるのでは、そのあたりも総合的に考えていただいて、サポートできる体制を整えていただければどうかと思います。以上です。

(岩倉市長) 一通りご意見ご質問ご指摘等がありました。正直に言うと、ICT化という意味では周回遅れでしたが、急にバタバタと整備をしたために、ソフトの準備段階で先生方は大変苦勞するのではないかと考えています。したがって、使いながらいろいろなことが起きてくると思いますし、進めながら整備をしていく考え方でいかなければならないと思います。特に子どもたち相手ですので、操作間違いを故障だと思い、先生に連絡をしたりすることもあるだろうと思いますし、何よりも先生方のスキルギャップというのは、どうしても出てくると思います。そうしたギャップに気づく学校があれば、学校単位でのギャップをどう埋めるのかというミッションが出てくるのではないかと感じたりだとか、いろいろなことが起きてくると思いますので、是非、指導室長、頑張ってくださいと思います。それでは、よろしいでしょうか。

(佐藤委員) すいません、ひとつお願いと言いますか、非常時の場合、齋藤委員がおっしゃったように、同じような環境にするということが、私もととても大事なことだと思います。実際、授業でMicrosoft Teamsを使用したのですが、契約内容によって使い方が全然違い、出来なくなったりということがありました。その中で、特にスマートフォンを中心にしているところは、画像が見えないだとか、使えなくなってしまうだとかそういう事がありました。同じような環境になるようにパソコンを貸し出して対応はしたのですが、非常時の時に、各家庭の契約内容によって、違うこともおそらく出てくると思いますので、確認をしていただければと思います。実際に始めてみて、気づかないところの筆頭だったものですから、同じ環境で同

じタブレットが手に入るのであれば、その方が、進みやすいのかなと思いました。

(岩倉市長) 今の通信環境の違いのご指摘について、どうでしょうか。

(総務企画課長補佐) 前回のアンケートでは、確かにインターネット環境のない方が約12%という事でしたが、その他の方について詳しくどのような契約をしているかまでは、フォローできていなかったのも、おっしゃることは確かだなと思いましたので、実際に貸出しをするといった際には、丁寧な対応をしてまいりたいと思います。

(岩倉市長) 単純に思うのですが、例えば大学や、苫小牧だと苫小牧工業高等専門学校がオンライン授業を行っている場合に、自宅が市内だけではなく、その他ばらばらだと思いますが、そういった場合の通信環境の捉え方と、小中学校の場合はほぼ、市内ということの捉え方は違うものなのですかね。

(佐藤委員) 機種によって違うのかなと思います。苫小牧工業高等専門学校でさえ、困ったというのが、その部分だったようです。

(岩倉市長) そうですね。苫小牧工業高等専門学校は相当、困ったようです。

(佐藤委員) なんでもわかっている専門の先生がいるのにも関わらず、少し抜けていたところが、その部分という事でしたので、同じ環境を作るといことが大変だということをお話しておりました。

(岩倉市長) 教育委員会あるいは先生方、ご苦労掛けますが、苦労で汗をかくことに慣れている教育委員会ですので頑張ってくださいなと思います。他はよろしいでしょうか。

(一同「なし」の声)

(2) 校区見直しについて

(岩倉市長) それでは、議題の2「校区見直しについて」事務局から説明をお願いします。

<p>(総務企画課主査) それでは、議題の2「校区見直しについて」説明をさせていただきます。苫小牧東小学校の移転改築後、校区の在り方について、末広町を中心に議会、報道においても関心の高い事案となっておりますが、これまでの経過も含めて、昨年12月に実施した保護者、児童アンケートの結果について、ご報告させていただきます。</p>
<p>資料1枚目をご覧ください。昨年11月に若草小学校のPTA役員の皆様に、アンケート実施のご協力をお願いした際の資料でございます。まず、これまでの経緯としまして、平成26年の規模適正化地域プランに基づき移転改築を行いました。当初から、校区の在り方は課題としてありました。検討の結果、児童の学校生活上の不安や学校経営上の影響などを考慮し、移転改築に伴う校区の見直しは行わないこととしました。引き続き、町内会や新入学児童の保護者などから、ご要望いただいていることもあり、移転改築後の次のステップとして、検討を始めたところでございます。</p>
<p>次に、校区見直しの基本的な考え方として、学校規模適正化基本方針に定める、2学級を維持、確保することなどを前提として考えております。裏面になりますが、校区見直しの具体的な手法や課題、現時点での児童数の推計も合わせてご確認ください。11月の時点では、末広町の校区見直しに限定した想定をしておりましたが、若草小学校PTA役員の皆様に様々なご意見をいただく中で、表町、王子町など苫小牧東小学校の校区も含めて、両校の保護者からアンケートを行うこととしました。</p>
<p>それでは、アンケートの結果の報告をさせていただきます。なお、ご協力いただいた両校1年生から4年生の保護者、児童には本日付けでアンケート結果を通知しております。まず、若草小学校でございますが、対象児童190人のうち159人からご回答いただいております。質問の1「現在の校区、通学校の指定を適切と思うか」について「適切である」が116人、73%、「適切でない」が17人、11%、「どちらとも言えない」が26人、16%となっております。末広町以外の保護者は「概ね適切である」と考えております。末広町47人の内訳は「適切である」が14人で30%を切っており、「適切でない」が17人、「どちらとも言えない」が16人で</p>

<p>「適切である」を上回る結果となっています。距離に関しては「東小が近いが、もともと若草小学校校区であり、見直しを望んでいない」という意見と、「距離だけでなく、安全面からも適切でない」とする意見に割れている状況でございます。</p>
<p>次に質問の2「校区見直しを行う場合の手法について」の質問になりますが、「①新入生のみ見直す」という回答が40人、26%、「②在校生も含めて一斉に変更する」という回答が43人、27%、「③新入生から実施し、在校生は選択できるようにする」という回答が65人、42%と最も多くなっております。質問1で「校区が適切でない」と回答した保護者の内訳も同様に「③新入生から実施し、在校生は選択できるようにする」という回答が多くなっています。裏面については、学校規模について、一般的な考え方をお聞きしたところとなりますが、適切と考える1学級の人数については「25人程度」、1学年の学級数については「2学級」、通学距離については「1キロ以内」と「2キロ以内」の回答が69人の同数となっております。その他、自由記述で賛否両論、様々なご意見をいただいておりますが、いずれも貴重なご意見であり、参考とさせていただきたいと思っております。</p>
<p>続いて、苫小牧東小学校ですが、対象児童120人のうち90人からご回答いただいております。アンケートの内容については、若草小学校と同様でございます。質問の1「現在の校区、通学校の指定を適切と思うか」について、「適切である」が69人、77%、「適切でない」が3人、3%、「どちらとも言えない」が18人、20%となっております。王子町、錦町、表町、大町以外に「適切でない」という回答はなく、校区見直しの必要性をあまり感じていないといえるようです。王子町の保護者からは、「若草小学校の方が距離が近い」、「国道の横断が不安である」という意見がございました。</p>
<p>次に質問の2「校区見直しを行う場合の手法について」の質問になりますが、「①新入生のみ見直す」という回答が20人、22%、「②在校生も含めて一斉に変更する」という回答が23人、26%、「③新入生から実施し、在校生は選択できるようにする」という回答が44人、49%と、若草小同様に最も多くなっております。裏</p>

面についてですが、適切と考える1学級の人数については「30人程度」、1学年の
学級数については「2学級」、通学距離については「2キロ以内」の回答が多くなっ
ております。自由記述のご意見の中では、東小学校の保護者からも「末広町は東小に
変更してもいいのではないか」との意見や「本当に必要な方、これも末広町を指すも
のと思いますが、それに留めてほしい」といったご意見もいただいております。また、
校舎移転の際、引っ越しのストレスもあったようで「子どもたちに不安を与えたくな
い」といったご意見もいただいております。
以上がアンケートの結果となりますが、この結果のみで判断するものではなく、あ
くまで参考とさせていただき、市教委として、学校規模適正化の観点から、検討を進
めていきたいと考えております。この結果や皆様のご意見や地域のご意見も伺いなが
ら、素案の作成を行い、新年度5月頃までに方向性を決定したいと考えております。
説明は以上になります。
(岩倉市長) 校区の見直しについて説明がございました。この件に関し、ご意見、
ご質問がありましたらお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。特にないでしょ
うか。東小学校、若草小学校の統合に反対していた高橋委員、いかがでしょうか。
(高橋委員) 特別、反対をしていたというよりも、東小学校の旧校舎に愛着があり
ましたので、活用の話をしていたことを含めてのことだったと思います。今現在、東
小学校のPTA会長をさせていただいておりますが、毎回ある意見で、アンケートの
結果、そのとおりだと思っております。一番心配されている、国道を横断するという
ことに関しましては、小学校1年生、2年生等、小さいお子さんにとっては、大変危
険であることは間違いのないと思いますし、それぞれの家庭環境において兄弟がいてわ
かれるのを懸念しているだとか、いろいろな形で考えられている方が多いかと思いま
すので、是非、そういうことをご参考にさせていただきながら、選択ができるという
のが私は、適切なのかなと考えておりました。以上です。
(岩倉市長) その他いかがでしょうか。
(齋藤委員) 私の子どもたちも、卒業しましたが東小学校でお世話になっておりま

<p>したので、高橋委員がおっしゃるとおり、東小学校からの視点から言えば、やはり国道を渡るというのは、親としても大きな不安材料ではありました。過去には死亡事故も起きています。若草小学校のお子さん方も、歩道橋があるとはいえ、やはり、小さな子どもたちが歩道橋を渡って国道を越えるというのは、とても交通量の多い道路ですので、不安を感じながら登校をさせているというのは事実だと思います。また、末広町の問題ですが、やはり末広町は、旧東中学校の生徒玄関の道路を挟んで真向かいに住んでいる家の方が、若草小学校に通っていて、新しい校舎ができたのにその学校には行けずに、若草小学校に通っているというのは、少し地理的に見ても問題かなと個人的には感じます。ただ、何年度からここから東小学校、ここから若草小学校といっても、保護者や子どもたちの感情もありますので、そこは何年か移行期間を設けたり、兄弟の問題等も考えたりしながら、柔軟に対応していただき、子どもたちに負担のない校区を定めて欲しいと思っています。以上です。</p>
<p>(岩倉市長) 佐藤委員はいかがですか。</p>
<p>(佐藤委員) アンケートの内容を重視して、保護者の様々なご意見がありますが、齋藤委員がおっしゃったように、やはり子どもたちの気持ちを考えて、保護者が理解し協力していくということだと思います。国道を渡ることは、もちろん危険で、かつて沼ノ端でも自転車が国道を渡る危険性について、長い間話をされてきましたので、やはり危険のない通学方法を考えるということも必要かと思います。以上です。</p>
<p>(岩倉市長) 岡田委員はいかがでしょう。</p>
<p>(岡田委員) 末広町は、東小学校が近いということもありますので、今学校は、地域と密接に繋がっていくことが重視されていますので、近い方が一体感のある校区なのかなと思います。子どもの見守りに関しても、学校の周辺がある程度、通う学校という方が、良いのかなと思います。</p>
<p>(岩倉市長) 教育長はいかがですか。</p>
<p>(五十嵐教育長) 資料の2に記載されている校区見直しの基本的な考え方ですが、委員の皆さんからもお話が出ていました、通学の安全を確保するということと、保護</p>

者、地域のご意向を十分に反映するという事はとても大事です。もう一つ、一番上に記載している学校規模適正化、学年の学級を2学級維持するという部分もかなり、大きな問題かなと思っています。このまま、東小学校が校区見直しを行わないままだと1学級になってしまい、学年に複数学級を確保できない状況であります。ちょうど令和4年度から、末広町にお住まいのお子さんが東小学校に通うことにより、東小学校の学年1学級を避けることができ、若草小学校もそのまま複数学級を確保することができ、単学級を避けることができるということも、かなり大きな問題かなと思っていますので、これからまた、皆さんや地域の皆さんからのご意見を聞いた上で、このような方向性で進めていければ良いのかなと思っています。

(岩倉市長) 一通りご意見を聞いてきましたので、教育委員会では様々なご意見を聞きながら、あるいはアンケート結果を踏まえて一つの方向性を決めていただきたいと思っています。新年度が始まり5月には方向性を示したいとお話であります、私自身は、昨年からずっと言っていましたが、本人に確認をしたわけでもないですし、保護者がどのように思っているのかわかりませんが、新しい校舎ができて、その横の通学路を通り、古い若草小学校に行かなければならない子どもの気持ちというものをやはり考えるべきではないかと思っています。たくさん対象者がいるわけではなくて現実には複数の対象者がいます。それであれば、通学路を変えたらどうかと思っていて、やはり、子どもの気持ちを第一に考えるべきではないかということも昨年からずっと言っていました。保護者の気持ちもあります、アンケートを取れば、保護者は遠いけれども子どもの日々の環境を変えたくないという保護者がいるのも当たり前ですので、心理としてアンケートにあまり捉われることなく、これからの子どもたちの日々、教育環境を考えたときに、校区の在り方がどうなのかという観点から、考えるべきではないかと思っています。また、文部科学省から1学年1学級は教育上よくないと言われていますが、それは当たり前のことです。しかし、今これだけの少子化であれば、そのようなことは成り立たなくなっています。1学級でも複数の学級がある学校と同じような教育環境をどう作れるかということ、考えるのが大人の役目だと

思います。同じ市内で、生徒数が多すぎて困っている学校と1学級しかできない学校では極端なことです。少子化によってそういったトレンドはこれから益々激しくなります。それは目に見えていますので、それよりも同じレベルの教育環境をどう与えられるかということ、教育的視点に立って考えるべきではないかなと思います。何学級だからどうだっていうこと以上に、もっと大事な問題があるのではないかと、いろいろなことを考えていまして、是非、難しい問題ですけれどもこれからはっきりと詰めて先を見据えた決断をして欲しいなと思います。他にないですか。

(一同「なし」の声)

(3) 北海道苫小牧支援学校について

(岩倉市長) それでは、議題の3「北海道苫小牧支援学校について」事務局から説明をお願いします。

(教育部斎藤次長) 議題の3「北海道苫小牧支援学校について」ご説明をさせていただき、机の上に「ほ・む・す・く」という資料が置いてあるかと思います。先ほどのGIGAスクール構想の関係です。市議会でもお話が出ていたのですが、保護者の皆様もこの後のタブレットの導入などに、興味や不安もあるかと思いますので、保護者にも情報発信をした方がよいのではないかと市議会での議論もありましたので、そういったことを情報発信したいということで、家庭用の情報誌「ほ・む・す・く」にてお知らせをしておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

それでは、議題の3「北海道苫小牧支援学校について」説明をさせていただきます。4月に開校を予定しております、北海道苫小牧支援学校の進捗状況について、お手元の資料をご覧ください。この後、2月1日に発行される広報とまこまい2月号に掲載予定の特集記事であります。市民周知のため、このタイミングで紙面を押さえており、昨年10月に開設した道教委の開校準備事務室の協力で作成したものでございます。

<p>内容はご覧いただいているとおりでありますが、障がいのある子どもたちの成長のために、地域と共に歩むすばらしい学校を目指していることが、市民に広く伝わるものと思っております。昨年、コロナ禍でありましたが、2度の説明会などを経て、児童生徒の個別の教育相談が行われ、現在のところ、小中合わせて、35名程度の児童生徒が初年度として通学する予定となっております。それに伴い、25名程度の教職員が配置になる見込みでございます。ホームページでも公表されていますが、校舎内部の工事も順調に進んでいるようです。これは現在のホームページですが、校舎の改築状況が随時、発信されていまして、現在、階段だけではなく、廊下にも手すりをつける工事が進められています。また、左側に、道教委をお願いしまして、明德小学校のリンクを張らせてもらい、記念碑の情報等も掲載をさせていただいています。市教委としても最大限の協力をしたいということで、広報もそうですが、町内会との橋渡しや学校給食の提供など調整を図っているところであり、特に教育相談においては、密に連携をとっているところでございます。新年度、ふくし大作戦など市の取組も踏まえて、担当部署とも情報共有をし、市の特別支援教育を推進したいと考えております。</p>
<p>(岩倉市長) それでは、この件に関してご質問等ございますか。</p>
<p>(高橋委員) 4月開校ということで、現状の生徒数はどのようになるのか教えてくださいいただけますか。</p>
<p>(教育部斎藤次長) 先ほどの説明の中でもありましたが、まだ確定はしていませんが、白老からの通学も若干名いるようですが、小中学校合わせて35名程度で、現在、相談しているということで聞いております。</p>
<p>(高橋委員) 現状、苫小牧から平取養護学校に通っている方々はどのくらい、いらっしゃるのでしょうか。</p>
<p>(教育部斎藤次長) 今は70名程度だったと思います。当初から想定はしていましたが、やはり障がいを持つお子さんが教育環境を変えるというところに抵抗がある方もいますし、支援学校のまだ全貌も見えない中で、もう1年様子を見ようという思いの保護者も多いようです。</p>

(高橋委員) わかりました。
(岩倉市長) その他ございませんか。
(岡田委員) 通学は、スクールバス、あるいは一般のバスで通われる方もいらっしゃるということでしょうか。
(教育部斎藤次長) 現在、道教委で調整をしておりますが、スクールバスを数台用意しています。
(岩倉市長) 佐藤委員はいかがですか。
(佐藤委員) 新しい学校に対して、保護者の方たちの期待や要望というのが、おそらく大きくあると思うのですが、自分の子どもたちの将来を見据えたことの質問もあったと思うのですが、説明に対して保護者の方からのご意見はどういうものがあったのでしょうか。開校準備事務室の方からのこのメッセージからすると、新しい学校に対して自分たちもいろいろと準備をしますというようなことが伝わってくるのですが、保護者の方からは要望や期待など、どのようなことがあったのか、教えていただけましたら、心構えというものはっきりするのではないかと思うのですが、もしも何かありましたら教えていただきたいです。
(教育部斎藤次長) 2回の説明会の中で、保護者の方からのいろいろな質問ですとかご意見などを踏まえて、若干の修正を加えながら準備をしてくれています。特に施設面ですと、エレベーターの大きさが当初の予定より大きくなっていたり、内装を大きく変えて障がいを持った子に合ったトイレにしたりですとか、設備関係に思っていた以上に期待感を持っている保護者の方が多かったと思います。
(佐藤委員) 明るい感じの色だとかいろいろあると思いますので、ぜひ、4月を楽しみにしておりますので、スムーズに始められるようにと思っています。
(岩倉市長) 斎藤委員はいかがですか。
(斎藤委員) 念願の苫小牧の支援学校ができ、ついに苫節何年もなかなか誘致してもかなわなかった学校が開校するということで、本当に喜ばしいことだと思います。最初はいろいろな問題もあると思いますが、先生方や保護者の協力を得ながら、

スムーズに進んでいったらいいなと思います。前々から私が申し上げていたことで、少し懸念していることが、道の支援学校は、高校は附属してないということで、支援を必要な保護者が迷われるのは、地域の学校の支援学級に行くべきなのか、この支援学校に行くべきなのか、距離的な問題だけではなく、支援の程度によって決めるものなのかということだと思います。程度によって決めるといっても、保護者の方も、自分のお子さんがどの程度でどんな支援を必要としているのか、やはり少し分からないところもあると思いますので、ここの支援学校は北海道の学校ですけれども、苫小牧市のお子さんですので、市教委が丁寧に親御さんに説明をして、その子その子に合った学校選びのお手伝いをしていただきたいと思いますなと強く願っています。

(岩倉市長) ありがとうございます。教育長はいかがですか。

(五十嵐教育長) 長年、要望をしていた支援学校がやっとこの4月からオープンするということで、非常にうれしく思います。知的障がいがあり、コミュニケーションが苦手な子どもたちが専門的な教育を受けられるということで、そのような環境ができることについてとても喜ばしいと思っています。支援学校の準備室では、いろいろな情報の中で、地域との関わりを重視し、地域との交流学习、あるいは学校近くのお店でお買物体験など、いろいろとやっていきたいというような話を準備室から聞いていますが、今後、市や市教委として、地域とのかけ橋といいますか、つなぎ役といったようなところでは、どのような想定をしているのか、今の段階で何か分かることはありますか。

(教育部斎藤次長) 実は、昨年12月頃に町内会長へ、私たちから連絡をしておりまして、支援学校の準備事務室がご挨拶に行きたいということで調整をしていたところでしたが、新型コロナウイルスの関係で、今、保留になっています。この後、もえぎ町とスプリング・タウンの両町内会にご挨拶に行くということで調整しているところです。また、スクールバスの関係でも、バスの停留所を広い駐車場を持っている民間のスーパーなどを停留所にするという想定をしていますので、そういったところの企業等の協力も準備事務室で動いております。この後、いろいろな店舗の訪問など、

<p>地元の学習内容で何かこちらでできることがあれば、引き続き情報収集をしながら取り組んでいきたいと思っております。</p>
<p>(岩倉市長) これは本当に長い間の要望活動があり、様々な経過がありましたけれども、こうやって実現することができました。初年度の生徒数は、先ほど35名と言っていました、最終的には最大で50人いかないくらいかなと思いますが、やはり平取養護学校に行っている親御さんにとしてみると、せつかなじみができたところを急に変えたときに、子どもの気持ちはどうなるのかという心配もあるでしょうし、できれば近くにいてほしいという親御さんが増えていることも事実であります。そういう中で、おそらくこの学校の定員がマックスになるには数年、これからかかっていきますけれども、親御さんが安心して預けられる学校になっていくように、しっかり我々も苫小牧市の立場として協力していきたいなと思っております。1点だけ確認ですが、これは国の規定かも分らないですが、「苫小牧支援学校」ということで「特別」という言葉が消えています。一方で、市町村では「特別支援学級」と言っています。この特別支援学級という呼称はこれからも続けるのでしょうか。「特別」を取ったのは都道府県レベルだけの話でしょうか。</p>
<p>(教育部斎藤次長) 学校の名称からは取れている取組になっていますけれども、特別支援教育という教育上の用語自体に変更があったわけではないと押さえています。</p>
<p>(五十嵐教育長) 学校の名称をどういう名前にするかという話だと思います。昔のまま、聾学校だとか盲学校という名前が残っている学校もまだありますけれども、特別支援教育という学校教育法上の教育の種類としては特別支援教育で、特別支援学校の中に平取養護学校あるいは室蘭聾学校と残っており、苫小牧は苫小牧支援学校という名前になったということの理解でよろしいと思います。</p>
<p>(岩倉市長) わかりました。では、小中学校については特別支援学級でいくということですね。また、平取養護学校に対するバスの支援は引き続き続けるということですのでよろしいですか。</p>
<p>(五十嵐教育長) そのまま続けます。</p>

(岩倉市長) わかりました。平取養護学校へのバスの支援については引き続き行っていきたいと考えています。

それでは、本日は3つの議題がありました。これで終了したいと思います。その他で何かある方はいらっしゃいますか。

(一同「なし」の声)

3 閉会の宣言 …… 15時05分